

みさき

13号

美咲町議会だより

2008年8月10日発行



願い事がかないますように(かめっこ保育園 七夕まつり)

主な内容

- 給食費の値上げを阻止 —— 2
- 8人が町政を問う 一般質問 —— 8~15
- 町の課題を学ぶ 研修報告 —— 16~19
- 皆さんこんにちは
ダム湖に響け「さくらんぼコーラス」 —— 20

所)を合理化 クトを編成

定例会が六月十一日招集され、二十日までの十日間開催された。七千六百七十七万円を追加し総額を百四億二千五百十八万円とする一般会計補正予算など予算案件十一件、条例案件九件、その他案件二件、議員発議三件が上程され、全議案を全会一致で承認・可決した。
町長提案の行政報告は次のとおり。

本庁2課減

総合支所2課減

三月末に十一人の幹部職員が退職。四月一日に機構改革を実施した。役場本庁の少子化対策地域振興課を企画財政課に、生活環境課と上下水道課を統合し、上下水道環境課とし二課を減らした。

また、総合支所の教育課を本庁の教育委員会へ統合し、二課減を実施した。旭柵原の総合支所には、利用する住民の不便を解消するため、支所の地域住民課に教育委員会の窓口担当職員を配置した。

未収金の解消に

プロジェクト

行財政改革は最重要課題の柱の一つ。
厳しい財政状況の中、未収金の厳重な回収は、貴重な財源確保と公平性の確保のため必要である。
今までも未収金の徴収に努めてきたが、今年は五月に「未収金回収プロジェクト」を編成し、昼夜にわたり職員が足を運んだ。五月末までの回収は、二百九十八件、八百八万円である。
今後も回収に努め、未収金の発生防止と併せて健全な会計運営に努めたい。
(関連記事14ページ)

給食費の 値上げを 地産地消で阻止



今日の給食はまぜごはん(柵原東小学校)

原油価格、小麦などの食料価格の異常な高騰で、県内では給食費の値上げに踏み切る市町村が多い。
町では、週一回程度のパンや類の給食を町内産の完全米飯給食に、また、副菜も町内産百パーセント使用を目指し、給食費の値上げを避けたい。
この機会に、子どもたちや住民が地域の食文化や生産活動、栽培現場に理解を深めるように、食育を展開したい。

五月十八日、第五十五回県消防操法訓練大会が岡山県消防学校で開催された。小型ポンプ操法の部(二十六チーム)に出場した柵原第一分団第二部が多くの声援の中、見事三位に輝いた。優秀選手番員賞に三番員の稲谷淳さんが受賞。今後も精進し住民の安全、安心のため活躍をお願いする。

お見事、第3位 柵原第1分団第2部

二課（本庁）・教育課（支 未収金回収にプロジェクト

優遇を拡大 ふるさと納税

二十一年度
以後の町民税
に係る寄付金
制度の拡大で
あり、ふるさ
とを応援した
い納税者の思
いを実現するもの。税制上
の優遇が大幅に拡充された。
個人が希望する自治体に
寄付した場合、住民税の税
額から控除される。（所得
控除 税額控除）。

寄付金控除の上限額を総
所得の25%から30%へ、適
用下限額を十万円から五千
円に引き下げる。詳細は税
務課へ。

（関連記事6ページ）

2 特別会計に 赤字

十九年度決算で二特別会
計に歳入不足があった。

繰上充用額（赤字）は、
住宅新築資金等貸付事業に
三千五百九万円、野外趣味
活動施設事業に九千二十八
万円、合わせて一億二千五
百三十七万円。前年度から
は二千八百九十八万円の赤
字を減少させた。



楽しみました見事な棚田（棚田きんちゃいまつり）

地域にエール いきいき美咲 各地で多くの催し

山陽新聞社と共同で取り
組む「地域にエール・いき
いき美咲」を六月一日開催。
大井和西地区では「棚田
きんちゃいまつり」が開催
され、田植え体験・ウォー
キング、卵かけごはん・棚
田そばなど味の市、農産加
工品の販売など多様な催し
でにぎわった。

柵原地域では、東洋一の
硫化鉄鉱山の町として栄え
た時代の風情を味わう「昭
和三十年代にタイムスリッ
プ」を開催。多くの家族連
れが鉱山の歴史と旧片上鉄
道の乗車体験を楽しんだ。
旭地域では、卵かけごは
んの先駆者でジャーナリス
トでもある岸田吟香を学ぶ
催し、ゆかりの地を巡るパ
スツアーを実施。

記念館、柵原公園、生家
跡地を訪ねるなど吟香を学
ぶ一日を過ごした。

その他にも多くのイベン
トが実施された。これから
も美咲町の一層の活性化を
図り、まちづくりを推進す
る。ご協力をお願いする。

大きく変わる 国民健康保険

後期高齢者医療制度の発
足で七十五歳以上の人は国
民健康保険から脱退し、別
会計となる。そのため、国
保から後期高齢者医療へ支
援金を出す。

国保の所得割は医療分が
10・2%であったが、二十
年度からは医療分6・5%、
高齢者支援分2・6%で課
税される。2・6%は後期
高齢者医療制度への支援金
（関連記事6ページ）

臨時会

（7月15日）

4人を議会推薦
農業委員

七月十五日、臨時会が
招集され、一般会計補正
予算一億三千四百七十二
万円を追加し、総額百五
億五千九百九十一万円と
する議案が提案。

歳入は、県支出金四千
六百万円、繰越金八千五
百万円が主なもの。歳出
では、打穴西地内の墓地
公園造成に二千二百八十
八万円、農道改良などに
八千二百二十五万円など
である。全会一致で可決
した。

最上忠氏が一身上の都
合により、六月二十七日
付けで議員辞職した。柵
原選挙区の議会議員の補
欠選挙の投票日は八月十
日。

議会推薦

農業委員会委員

寒竹 壽藤田上
黒瀬 精（打穴下）
井上 太中井和
杉本彰一郎（高城）

常任委員会報告

総務
補正予算7167万円増額
総額104億2518万円

一般会計

付託された議案八件を審査し、承認した。

一般会計補正予算

歳入歳出に七千六百六十七万円を追加し、総額百四億二千五百十八万円とするもの。

【歳入】使用料千六百二十七万円は、やなはら住宅の家賃と駐車場使用料、国庫補助金八百三十七万円は、加美小学校と柵原中学校の耐震化工事の補助。県補助金四百五十万円は、倭文西地区の集落機能再編・強化事業の六十万円、小規模林道整備事業の林道野呂線舗装工事補助金二百六十六万円など。四千五百三万円は、十九年度会計の繰越金。
【歳出】総務管理費三百六十二万円は、倭文西地区の集落機能再編・強化事業の調査費九十一万円、柵原地

域循環バスの路線延長対策事業費三十八万円、パソコンのウイルス対策費五十万円、地図情報システムの使用料百六十一万円など。消防費八十七万円は、旭地域二カ所と柵原地域一カ所の消防機庫補修費。長期債（借金）の繰上返済に四百五十七万円。

辺地総合整備計画の変更

辺地事業は、財政上の特別措置などに関する法律に基づき、事業計画するもの。平成十八年度から二十二年度の五年計画に、町道稲井谷線改良事業（江与味地内）および町道大山本線改良事業（江与味地内）の一億五千五百万円を追加した。



入居者募集中のやなはら住宅

町の財政は大丈夫か

岡山県が財政危機宣言をした。美咲町の財政は大丈夫なのか。

【問】岡山県が財政危機宣言をした。美咲町の財政は大丈夫なのか。

【答】歳入の確保と歳出削減に努めている。七月には再度、未収金の回収をプロジェクトチームで行った。現在は健全財政であるが、今後二年ほど実質公債費比率が上がると予想される。

【問】やなはら住宅の入居状況は。

【答】企業棟は三十戸中、二十一戸入居。一般棟は三十戸中、十二戸入居している。
【問】林道整備は、返済に有利な過疎債（借金）は使えないのか。
【答】過疎債は、集落と集落を結ぶ事業にしか使えない。
【問】町内無料電話（ＩＰ電話）の計画は進んでいるのか。
【答】現在、操作が簡単な電話番号が変わらないものを研究している。

民生教育

夏休みに耐震工事

加美小・柵原中学校

付託された予算案件五件、陳情二件、継続審査の要望一件を審査した。
保健福祉課では、後期高齢者医療事務費として一般会計から後期高齢者医療特別会計への繰出金百六十二万円、後期高齢者の特定検診に百八十万円。
住民課では、加美児童館の防球ネット設置費百四十九万円、新たに取得したやなはら住宅の管理費ならびに修繕費五百三十七万円である。

教育費では、加美小学校の耐震補強費八百十六万円、柵原中学校の体育館、技術棟の耐震補強費二千五百四十五万円、夏休みに工事を予定である。中央総合体育館の非常灯二十カ所の取り換え費百六十一万円である。



防球ネットで自由に遊べる（加美児童館）



急げ耐震補強工事（加美小学校）

後期高齢者医療保険の事務は岡山県後期高齢者医療広域連合が行うが、一部窓口業務を市町村で受け持つ。その関連で情報公社の事務委託料を百六十二万円追加した。

審査の結果、全議案を承認した。

問 小谷地区で取り組む「近所福祉ネットワーク」事業の内容は。

答 地域と健康増進課、社会福祉協議会が共同で地域の福祉に取り組むもの。地域には様々な制度を利用し、継続してほしい。

問 特定検診（メタボリックシンドローム）受診の対象者は。

答 後期高齢者は努力義務で医者にかかっている。

問 後期高齢者医療保険の特別徴収（年金から天引き）でトラブルはないのか。

答 四月の徴収でトラブルがあった。国から修正のデータが送られてこない。町でわかる範囲で修正した。

問 中央中学校建設計画はどこまで進んでいるのか。

答 美咲町教育審議会での審議中である。



人出は天気次第（さくらまつり）

産業建設

今年のさくらまつりは入場者やや減少

付託された一般会計補正予算、特別会計補正予算三件を関係課に説明を求め審査した。全議案を承認。

一般会計補正予算
 農林業関係では、千三十三万円を追加。主なものは林道舗装（野呂線）に八百万円、廃油処理事業に六十万円、牛の放牧用電気柵に六十万円の補助金など。

商工観光関係では、結婚推進事業に六十二万円、観光推進に六十二万円など百六十万円を追加。

下水道費の二百万円は特別会計への繰り出し。

特別会計補正予算
 統合簡水事業会計（旭地区）は、二百三十六万円の追加。小規模水道施設を統合簡水に接続するもの。中央簡水事業二千万円の追加は、下水道工事で水道管の移設に要する費用。中央公共下水道事業二百万円は、錦織地内の渠道補修に伴うもの。下水マンホール十二カ所のかさ上げ費用である。



整備予定地を確認する産業建設委員会メンバー

問 今年の三休公園「さくらまつり」は盛会か。

答 天候が不順のためか、入園者が少なかった。駐車場の利用料も六十万円ほど減少した。

問 水道工事中の西川上地区で、給水計画区域からはずれている地域への対応はどうするか。

答 何らかの方法で早急に対応する。

問 県道改良のマンホールのかさ上げ費用を町

が負担することは不可解。町が県道を利用して下水道管を埋設しているため負担はやむを得ない。

問 水道管の移設にリース管（借りもの）を使うのは余分な出費になるのでは。

答 工事などを検討の結果、リース管で対応することが、経費、管理面でよいと判断した。

提案された条例は、新規一件、改正七件の計八件。総務常任委員会に付託し審議、委員長報告のとおり全会一致で承認し可決した。主なものは次のとおり。

物品リースの

長期契約が可能に

65歳以上の住民税

特別徴収に

●長期継続契約に

関する条例

電子機器などの物品リース契約などで、五年以内の長期契約を締結することができる。

●美咲町税条例

寄付金制度の拡大（ふるさと納税制度）と公的年金を受けている六十五歳以上の方の住民税について、平成二十一年度から



団員のきずなは訓練から（美咲町消防団夏期団員訓練 7月13日）

特別徴収（年金から引き）する。

●ひとり親家庭等

医療給付に関する条例

中国残留邦人に対する支援策の一つとして、生活保護法による保護の適用とは別に支援給付が実施される。

消防団の隊長廃止

●非常勤職員等の報酬及び費用弁償に関する条例

消防団の機構改革に伴い報酬額を改正した。

●津山・柵原線共同バス

運行事業に関する条例

利便性向上のため、停留所に「東津山」を加える。

後期高齢者は

国保を脱退

●国民健康保険条例

後期高齢者医療制度の発足に伴い、保険税率の改正、後期高齢者医療制度への支援金課税割合を定めた改正。

陳情・請願

敬称は省略させていただきます。

陳情三件は、民生教育常任委員会に付託し審査、委員長報告のとおり全会一致で承認した。

療養所を地域に

開かれた医療・

福祉施設に

国立療養所長島愛生園

入所者自治会

会長 高瀬 重二郎

国立療養所邑久光明園

入所者自治会

会長 屋 猛司

入所者の療養権・生活

権を最後の一人まで保障

するとともに、労働者の

雇用を守り、ハンセン病療養所を地域の発展につながる医療・福祉施設として存続・発展させることは必要であり採択とした。

岡山県教職員組合

久米・苫田支部 支部長 池田 敬

義務教育費国庫負担の

教育予算の拡充を

夢咲クラブへの

総合型地域スポーツクラブ

会長 河村 勝司

日常生活の中で自発的にスポーツを楽しむ、各自の健康・体力を維持増進させるとともに、会員相互の親睦図り、地域社会の連帯と明るく豊かな生活を実現することがクラブの目的である。

活動の内容は理解できた。町民有志の自主的組織であり、一日も早く財政面でも自主独立を目指すべきである。発足二年目でもあり、当面、財政的支援は必要と考え、採択とした。



楽しいよ みんなもおいでよ（夢咲クラブ 柔道サークル）

変更や地方交付税削減など厳しい地方財政の状況から、少人数教育の推進、学校施設、旅費、教材費、就学援助・奨学金制度など教育予算の確保が厳しくなっている。国全体として教育予算を確保・充実させることが必要であり採択とした。

組合議会報告

組合議会とは、行政上の目的別に他の市町村と共同で事務処理を行い、目的事業を効率的に行う団体組織

西消防署の新築工事

(鏡野町円宗寺)

1億586万円で落札

津山圏域消防組合

(津山市、鏡野・奈義・勝央・久米南・美咲町)

七月十一日、七月臨時会が開催、議案三件、報告一件が上程され全議案とも承認し可決した。

西消防署新築工事は、相互建設(津山市)が一億五百八十六万円で落札し契約。

東署の高規格救急自動車は、入札が不調に終わり、最低入札業者との話し合いにより、岡山トヨタ自動車から三千四百九十九万円で購入。

規約変更は、津山圏域消防組合が、非常勤職員公務災害の事務委託を追加するため、県市町村総合事務組合に申請するもの。

管理者が専決処分した「津山圏域消防組合手数料条例」の改正は、火薬類取締法、高圧ガス保安法、液

化石油ガスの保安及び取り引きの適正化に関する法律に基づき審査などの申請事務、手数料の徴収ができるもの。

問 防災ヘリの購入を決定されたが、県北のヘリ発着場の確保はできているか。

答 防災ヘリは、県の事業。対応は購入後のこととなる。

問 西署移転後の救急対応は。また、高規格救急車、救急救命士の養成を早急にされたい。

答 順次、整備、養成をする。

問 新見管内では医師不足から救急病院がなく、津山への搬送が多くなると思われるが対応はできるか。

答 まだ問題になっていない。

要望として、東消防署建設も早急に検討をの意見があった。



東署(津山市河辺)に配備される高規格救急車の内部

津山広域事務組合

(津山市、勝央・奈義・鏡野・久米南・美咲町の勤労者対策や広域交通などに対応)

七月十一日臨時会が招集され、津山市議会議場で補正予算案二件が提案された。審議の結果、全会一致で可決した。

繰越金は予備費に

一般会計補正予算

歳入では、十九年度繰越金を六百十万円追加、総額を九千十万円とするもの。歳出では、施設管理などに百八十万円追加。四百九十二万円は予備費とする。

ふるさと振興事業特別会計補正予算

歳入では、十九年度繰越金三百七十二万円など二百八十七万円を追加、総額千八百八十七万円とするもの。歳出では、バスセンター内の広域情報コーナーの修繕十五万円、残りの二百七十二万円は予備費に追加する。

水稻共済掛金が軽減

農業共済の条例改正

津山地区

農業共済事業組合

(津山市、鏡野・久米南・美咲町で運営)

七月十一日、臨時会が開催され二議案が上程、全会一致で可決した。

損害評価会委員の委嘱

組合内の委嘱担当職員一人の異動に伴い、新任担当者へ委嘱した。

農家負担軽減される

農業共済条例の改正

農業共済会計に剰余金が生じている。本年四月一日から共済掛金率を改正、軽減する。これにより、水稻など農家掛金は平均で約一割程度軽減される。

問

一般質問

廃止せよ 後期高齢者医療制度

問題点を把握し議論 改善に努める

答弁



安藤暢昭 議員

問 後期高齢者医療制度の問題をこれまで三回質問し議論してきた。この制度は国政の一番大きな問題になっている。

二十七府県の医師会、全市町村の約三分の一の地方議会が見直し、中止、廃止の決議をしている。美咲町議会も十九年十二月議会で

この制度の中止・撤回を求める陳情を全会一致で採択した。

高齢者差別の後期高齢者医療制度は廃止すべき。国民が安心できる、年齢、経済、地域的にも差別されない医療制度に知恵を出し合い国民的合意をつくるべきと考える。町長の考えを問う。

答

奥村町長

後期高齢者医療制度は国民的課題となり、大きな問題として議論されている。言われるように国民的合意は必要である。

制定から二年の猶予期間があり、実施の段階での混乱は国会議員の怠慢。末端行政も四月からの実施でトラブルが発生し、解決策も示されず迷惑している。

県の町村会や後期高齢者医療広域連合でも様々な経緯、議論があった。町村会でも、この制度が最善とは考えていない。今後十分議論することで一致している。今後も活発に意見を述べて問題点の改善に努めたい。



農地再生 耕作放棄地の復活に努力（旭地内 中営農組合）

質問

「農業再生プラン」（共産党）の内容をどう考えるのか

答弁

努力が報われるように農業に税を使うべき

問

拡大する食料の輸出規制、過剰から不足へ、途上国では暴動も起こり、農業、食料を取り巻く情勢は激変している。

日本共産党は三月八日に食料自給率の向上を目指し、安心して農業に励める農政への転換、農業再生プラン、

を発表。四つの提案をした。持続可能な農業経営に、価格補償・所得補償の充実

家族経営の維持と大規模経営を含む担い手育成で農地を保全
関税などで食料主権を保障する貿易ルールの確立

答

奥村町長

農水省やほかの省庁様々な会合で、議員と同様の考え方で発言している。作らない者に支払う減反政策でなく、作った者、努力が報われる農政に税を投入し、農業を守るべきである。農業・高齢者・後期医療制度・限界集落の問題など同時に解決するには正しい税の使い道を探ることが大事である。

農業問題も抜本的に見直し、農業の建て直しを圖らないと国の将来が危ぶまれる。

町では二十年度から学校給食を町内産の完全米飯給食に、野菜は健康増進課、産業観光課、教育委員会がプロジェクトを立ち上げ、使用料、作付計画を示し、町内農家に協力を求め地元産の利用を推進。これは給食費の負担軽減、農家の経済、生産意欲の向上を目指す町の取り組みでもある。

町政を

質問

**分権の実現に
市町村は結束せよ**

地方の声は住民が
選挙に参加すること

答弁



小島洋征 議員

問

合併以来三年が経過した。国の地方分権の掛け声とは裏腹に中央集権的要素が色濃く、いかに中央集権的システムで成り立っているかが明らかである。合併により市町村数が減少したことで、中央政府が地方をよりコントロールしやすくなったと思う。そうした中、地方分権改革推進委員会の一次勧告が決定したが、具体的実現には大いに疑問がある。

答 奥村町長
地方分権改革推進委員会は、まず国と地方の関係を対等と位置付けた。分権の基本は、自治体が創意工夫を凝らしまちづくりを進めていくこと。国や県の関与をできるだけ排除し財源的な面を保障し、自由裁量で地方に任せる、これが純粹な地方分権であると理解している。

市町村の実態は多種多様であり、人口のみで分けるのは不都合がある。人口レベルで分けるのは、自治体が事務処理する能力の有無が言われているが、地方の意見も聴き議論し、住民にとって最も利便性が高く行政効率期待できる権限移譲をすべきと考える。最終的には地方が本当に豊か

なるための地方分権であるべきだと考える。

地方の声を押し上げるには有権者が政治にもっと関心を持ち選挙に参加し、国民主権の政治に変えていくことだと思う。

質問

地方自治体が政策づくりを

美咲流の福祉施策を実施

答弁

問

現状の国政を見ると、年金、イージス艦、道路特定財源、国の無駄遣いの問題、どの問題も、国の政治に任せておいてはどうにもならないと感じる。また、官僚は使命感を失い末期症状の印象さえ受ける。

答 奥村町長
政治を志す者は、倫理・公正・平等の政治理念を持ち、官僚も倫理感と使命感を持って務めることが

こつした現状を考えると、地方の市町村が具体的な政策づくりを始めていくべきではないか。

基本であると思う。地方の声は選挙で届かすしかない。できる範囲で美咲流の福祉施策を実施している。



美咲流子育て支援は若者に人気（旭地域子育て支援センター 7月10日）

質問

借地料 1263万円

解決できたか

難しい問題

根気強く交渉していく

答弁



下山和由 議員

問

昨年、監査報告の中で借地料の問題が議会で提示された。平成十八年度の支払額は千二百六十三万円と多額である。議会でも町内全域にわたり現地確認し議論、将来にわたり必要な土地は買収し、不必要な土地は返却するなど意見を付してきた。その後、借地問題はどこまで進んでいるか。

答

奥村町長
平成十八年度の借地件数は全体で七十六件、内訳は中央地域八件、旭地域四件、柵原地域は突出して多く六十四件であった。一

部返却もし、平成十九年度は件数七十三件で借地料金は千三百五十五万円。内訳は中央八件で二百四十万円、旭四件で二十二万円、柵原六十一件で千九十三万円となっている。件数は少し減少したが、昨年の土地の評価替えにより借地料は逆に九十五万円増加した。

借地問題は、各担当課で契約内容の見直し、地権者との交渉を進めている。特に買収は価格の問題があり進んでいないのが現実である。今後も積極的に根気強く交渉して、廃止するものは廃止の方向で思い切った手を打ちたい。

質問

意義ある産業祭に取り組み

柵原エイコン広場に
各種団体の参加を要請

答弁



今年は産業祭でまちおこしを（昨年のぼっぱまつり）

問

柵原地域で例年行われている産業祭（ぼっぱまつり）は決定しているのか。

産業祭を意義あるものにするため、次の三点を検討しているか。

携 J Aを始め関係機関と連携

小中学校および各地区などの行事も考慮し、町民参加の体制づくり

地産地消の目的達成に農産物の出品奨励

山下産業観光課長
産業祭の開催日は十

答

奥村町長
開催場所はこれまで鉾山公園で行っていたが美咲町全体の産業祭と位置付け、駐車場も十分あるエイコン広場にした。町内全体のいろいろな農産物、工業製品の出品を願いたい。意見を聞き、改善しながら多くの人に参加いただき高い満足感を感じてもらえる、産業振興に役立つ祭りにしていきたい。ご協力をお願いする。

一月二十二日が二十三日を予定、七月の産業祭実行委員会で決定される。開催場所は書留地内のエイコン広場を予定。学校行事および町内の施設使用予定はないことを確認している。

関係機関との連携では、産業祭実行委員会は、議会を始め教育委員会、JA、商工会、区長会、婦人会などの代表者で構成されており、今後必要に応じて参加を要請する。

農産物の出品奨励はJA、商工会、各種団体にもお願いしたい。実行委員会の方針を定めていくことになる。

質問

道路特定財源は
一般財源に 使い方は

住民が満足する

配分を考える

答弁



三船勝之 議員

問 来年度から道路特定財源が一般財源化される。医療費や教育費などの生活者財源とする方針だ。暫定税率の廃止の声も大変多かった。道路は必要ないからガソリンは安い方がいいという意見もあった。個人的にはガソリンも安い方がよいが、暫定税率廃止で美咲町では、一億八千万円の歳入不足が生じる。都道府県知事の六割は、一般財源化されても道路整備に使うと答えている。企業の誘致や産業の振興、観光の振興など道路の整備は必要である。国道53号線

バイパス津山南道路も用地の買収が行われる。県道、町道の必要な道路は整備していかなければならない。一般財源化された時の財源獲得と使い道を伺う。

答

奥村町長

地方財政の充実を図るため、税財源の移譲を含め、地方道路整備の自由度を拡大する意味で一般財源化される。ガソリンの暫定税率の目的は、国の財源の乏しい中、道路財源を確保するため、ガソリンに二十七円十銭の税金を上乗せし、受益者負担で財源を確保するものだ。町の十八年度決算で試算すれば、道路関係費の約二十二億円のうち、ガソリン

の暫定税率が廃止された場合、一億八千万円の影響を受ける。主な使途は道路橋梁費で七億八千万円。過疎辺地対策事業、町道の維持管理費などである。国・県も財政難であり、交付税も期待できない。特定財源が一般財源化されると福祉とか学校教育へ回さざるを得ない。一方、道路は必要であり整備していかなければならない。

安全・安心を最優先し、住民の利便性、満足度の高い行政をするよう財源配分していきたい。原油価格の高騰に対する政策を、住民とともに政府に訴えていきたい。



ガソリンは安い方がいいよ (180円/ℓ 7月30日)

質問

公共施設の
危機管理は大丈夫か

安全確保に
万全を尽くす

答弁

問

町の学校施設の耐震診断実施率が8・3%、耐震化率が57・7%と報道された。早急な診断、耐震化が必要ではないか。また、中央中学校の建設計画は、道路の危険箇所はないか。

橋梁の老朽化はどうか。ため池の貯水率が三分の一のところもある。ため池が老朽化していないか。公共施設の危機管理はできているか。

答

中力教育長

報道は平成十九年四月の数字であり、二十年は耐震診断実施率は58・3%、耐震化率は69・2%である。加美小学校の教室棟、柵原中学校の技術棟、体育館は

今年の夏休みに補強工事を行う。中央中学校は全面建て替えて検討している。

答

清水建設課長

現在危険箇所として通行の規制をしている道路はない。災害発生時には迅速なパトロールで危険個所の発見に努め、早急に安全を確保する。町道を含む町内約五百の橋を調査した結果、八つの橋に問題があった。順次対策を立て対応したい。

答

奥村町長

県の調査で土石流の危険渓流と位置付けられている川が町内に二百七本もある。緊急度に応じ、国・県の補助事業や単独事業で対応する。町内には三百七十八のため池があり、水位を下げている池が七カ所ある。積極的に改修に取り組む。

中央中学校の建設は、教育審議会に建設場所の検討をお願いしている。

小中一貫教育、騒音、建設費など将来を考えた答申をいただき、二十一年度から計画を進めたい。

冷えきった地場産業に 愛の手を 町内業者に配慮 活性化したい



日神山定茂 議員

問

中央地域緑花公園入り口に四十区画の住宅団地の造成が順調に進み、来年度は分譲を開始する。少子化、人口減、そして活力あるまちづくりに有効だ。以前、地場産業の育成が目的で、町内業者が工事をするか、町内の製材所の材料を使用すると、施主に土地の広さに対して補助する政策をとった。県内産の材料で、経験豊富な業者がこの土地の気候に適した木造在来工法で建てた家は、人に優しく長く住んでも安心である。

若者定住対策に、地場産業の育成に何か政策は。

答

奥村町長
打六西団地は、総務省の補助事業で地場産業の育成に効果があった。今回も総務省の補助事業で取り組んでいる。県内産の木材を使用した木造住宅は、日本の気候に合い住みやすい。

町内産の木材、町内業者を利用する土地購入者には値引きをするとか、補助金を出す制度など取り組みたい。団地も含め若者定住対策に、全町で税法上の特典も考えてみたい。また、近くに分譲豊園も整備しており、オープンに豊園を付けるのも一つの案である。そのほかアイデア、要望があれば相談しながら取り組む。

団地は若者にも手の届く価格で販売し、完売することが第一である。子育てしやすいを条件に若者にぜひ買ってほしい。

質問

ありのままの姿を町民へ

答弁

逃げるな 隠すな 嘘つくな
出向いてでも説明する

問

合併して三年が経過した。財政が厳しい中、苦勞しながら行政運営している。住民サービスも基準ラインは維持していると思う。特別会計の改善や行政規模が大きくなったことで事業ができたり、合併は有効だったと思う。



もうすぐ分譲 住宅団地（緑花公園付近）

答

奥村町長

逃げるな、隠すな、嘘つくな。ありのままを説明する責任は執行部にはある。知らせることで、行政を理解してもらうことは大切だ。出向いてでも機会をつくり、正しい情報を伝え痛みを分かち合い、将来の見える町をつくりたい。

答

矢木副町長

五特別会計に赤字があったが、三会計は赤字を解消し、残り二会計の整理も進んでいる。全体ではラ

ストワンマイル事業の完成で情報格差が解消された。旭地域では合併浄化槽の補助、福祉バスの充実、水道整備、水道料金の値下げなど町民は住みやすくなっている。

答

福井副町長

条例、規則が統一され、サービスが上がるものや下がるものがあつた。柵原地域の厳しい特別会計の赤字が改善されつつある。寂れたという声もあるが、合併の効果を説明したい。

中学生議会の
開催を

問

行政の仕事、仕組みの勉強、自分の住む町の状況を自分の目で確かめるなど、中学生議会の開催しては。

答

中力教育長

将来、町を背負って立つ中学生に、郷土を理解してもらうには良いことである。検討したい。

答

奥村町長

議会や行政を見る、知るといふことは大切である。中学生にも行政に触れる機会をつくりたい。

質問

協働のまちづくり
組織の確立を

住民が主役の

まちづくりに取り組む

答弁



大神式之 議員

問 合併前は、行政主導型のまちづくりであった。まちづくりのリーダーは行政で、住民はお客的存在、すべてが行政任せであった。

これからは、住民自ら決定し、自ら責任を持つ自己決定、自己責任のまちづくりを進めていかなければならない。旧町の歴史、文化、習慣を生かしたまちづくり、住民と協働で進めていく組織づくり、協働のまちづくりの確立が必要ではないか。柵原地域では五つの地区がそれぞれ切磋琢磨し、地域おこしを行っている。青

壮年部が大成させた花火大会、女性部の特産品づくりなど、地域活性化の原動力となる新しい息吹が起きている。この息吹のあるうちに行政がリードし、住民と行政とが一体となったまちづくりを行うことが町の将来にとって大切ではないか。

答 山本企画財政課長 合併以来、住民が主役のまちづくりに取り組む仕組みづくりや体制の確立を行い、協働のまちづくりを推進するために、地域に向いて説明会、座談会を開き理解、協力をお願いしてきた。



一人ひとりが主役です(第2回柵原Don Don祭り 7月26日)

現在の八十一の自治区は地域自治組織として残り、これらを旧村またはコミュニティ単位にグループ分けして自主活動組織をつくる。その上部機関として、三地域それぞれに地域運営協議会を立ち上げる。これが、まちづくり体制の原形である。この地域運営協議会と行政とが互いに協力し、地域づくりを進めていく。

十八年度から協働のまちづくり交付金、地域活性化交付金など三年間の支援策を創設し、体制の基礎固めを行っている。本年度は、自主活動組織、

地域運営協議会の制度について説明し、組織づくりの準備をしたい。

答 奥村町長 住民が自分の地域は自分で守るといふ考え、自己決定、自己責任が大切である。

今までの慣習にとらわれず、残さなくてはならない文化、歴史は残していく。めりはりをつけた改革が必要だ。

住民が主権者として力を出し、それをサポートしていくのが行政と考えている。

質問 限界集落に
生きる力を

美咲流の政策で
生きる喜びの手助けをする

答弁

限界集落に住む人々が「誇りの空洞化」すなわち、農山村に住んでいる「誇り」を失い始めている。

ここにどのようにして生きる力、活力を生み出すか。住民に生きる喜びを感じるような手助けをすべきではないか。町長の考えは。

答 奥村町長 なぜ限界集落になるのか、なぜ後継者がいないのか。その場所で生活が維持できないのが原因ではないかと考える。基幹産業の農林業施策、国の政策に落とし穴があったのでは。農林業を活性化させる国策が必要である。

町では、老人介護や近所同士の支え合いをしっかりと根付かせていきたい。また、健康こそが最大の幸せの源である。健康増進課を中心に各課と連携して健康づくりを行っていく。地に足をつけた美咲流の政策を推し進めて、生きる喜びの手助けにしたい。

問 「人の空洞化」「土地の空洞化」「ムラの空洞化」と言われている。

質問 集中改革プランは進んでいるか

21年度までの5年計画 各分野で進行中

答弁



貝阿彌幸善 議員

問

町の行財政改革実施計画(集中改革プラン)は、平成十七年度に検討実施し、二十一年度まで取り組む。

集中改革プランの三本柱は次のとおり。

協働のまちづくり制度の確立 具体的には、住民提案制度の導入、住民との協働によるまちづくりの推進などである。

効率的で透明性の高い行財政運営の確立 具体的には、審議会の見直し、町民サービス環境の整備などである。

健全な財政運営の維持と財政弾力性の確保 具体的には、自主財源の確保と特別会計の見直し、未登記解消などである。

集中改革プランの現在までの進み具合と残る二年間の取り組みは。

答

山本企画財政課長

地域運営協議会を計画

集中改革プランは行財政改革大綱を基本に、平成十七年度から二十一年度までの五カ年間で取り組んでいる。協働のまちづくりは区長協議会と協議しながら、コミュニティ単位の自主活動組織をつくり、中央・柵原・旭地域ごとに地域運営協議会の体制づくりを考えている。

住民提案制度は、広報紙に同封の「みんなの声」のがきで、提案を受けている。

審議会の見直し

効率的で透明性の高い行財政運営を確立するための審議会の見直しは、情報公開制度運営協議会と個人情報保護審査会を統合し情報公開制度運営審査会に、環境保全対策監視委員会を廃止し監視員制度を設けた。土地利用調整審議会の下部組織に職員で構成する土地利用連絡会議を組織している。



話し合いの進め方 まとめ方を学ぶ(7月13日)

滞納処理など

財源確保

健全な財政運営では、副町長を中心に管理職六十一人による滞納金徴収班を立ち上げ、五月の一カ月間を滞納整理強化月間として徴収活動を行った。滞納件数は九百六十四件、滞納額一億四千三百万円のうち、二百九十八件、八百八万円を

徴収した。

町有財産の有効活用は、町有地の払い下げ、公共施設の有償貸し付けなど行っている。今後は、広報紙、みさきケーブルテレビに有料広告を掲載し、財源確保に努めたい。

野外趣味活動施設事業会計も赤字が解消できれば廃止と考えている。

七つの簡易水道会計は、平成二十八年度までに統合し、一つの上水道会計にするよう国から指導を受けている。

未登記の解消は、用地測量、分筆図面の作成費用が掛かるが、将来のトラブル解消に向け検討したい。

住民参加の自治基本条例を

問 総務常任委員会で行った政視察した長野県木曾町では、住民主体のまちづくり条例である自治基本条例を制定している。木曾町では、旧町村単位で地域協議会が多く、住民の参加で協働のまちづくり計画が練られている。町長は住民参加の自治基本条例を制定する考えは今もないか。

答 奥村町長 自治基本条例が制定されなくても町条例、振興計画により取り組んで行けば協働のまちづくりはできると考えている。

地域の再生に コミュニティビジネスを 地域のリーダーが必要 先進地視察も予定

答弁



松島 啓 議員

問

合併以来、協働のま
ちづくりが進められて
きた。協働とは行政と住民
が同じ価値感を持ち、共有
していくことだと考える。

コミュニティビジネス
とは住民が主体となり、地
域の課題や要望に対してビ
ジネスの手法で解決し、そ
の活動で得た利益を地域に
還元し、地域を再生、活性
化させるもので全国でも展
開されている。営利活動と
ボランティア活動の中間的
なものとも言われている。

地域の恵まれた資源、人
的資源、豊かな自然や農地
施設、伝統文化などを活用
し、高齢者、団塊世代、主
婦などの生きがい、やりが
いとなる。コミュニティ
ビジネスは、新たな雇用の
創出にもつながるのでは。
全国の成功事例を調査、
研究し推進していく考えは
ないか。

答

山本企画財政課長
コミュニティビジ
ネスの成功事例としては、
徳島県上勝町の(株)彩の事業
が有名である。木の葉や落
ち葉を集めて料亭の会席料
理の添え物として出荷する
と言う地域資源を活用した
ビジネスである。

コミュニティビジネス
を進めていくには、自分た
ちの地域は自分たちで何と
かしようという強い愛着心
を持ち、核になる熱意のあ
る人、失敗を恐れず行動す
る人、いわゆるリーダーが
必要。町では、昨年から地
域リーダー養成講座の中
でも勉強してきた。本年度も

四回の講座の中で企画・計
画づくりの勉強や先進地視
察も予定している。

答

奥村町長
町が先頭に立つてす
ることは難しいが、アドバ
イス、支援は行いたい。

柵原地域の婦人部が活発
に活動されている。現在、
生産者交流グループの組織
づくりをした。その連絡会
議などで今後、情報を共有
していく。



なんだ村ってな~んだ 高齢者の憩いの場を視察
(岡山市瀬崎町)

質問

空いた施設の 有効利用は

決まっていない
今後検討する

答弁



まだまだ使えます 旧旭町の議場

問

合併、機構改革、少
子化により旧大井和小
学校、旧大井和保育所、旧
打穴小学校、旭総合支所の
三階と四階(議場)などの
施設が遊休施設となってい
る。町の核となる施設が空
いているのは、とても淋し

答

奥村町長
国の規制があり用途
変えをすると、補助金返還
などの問題もある。いろい
ろと検討しているが、費用
対効果も考えると難しく、
再利用は決まっていない。

旭総合支所の三、四階は
施設も立派であり、旧三町
の歴史を残していく歴史館
のようなものも考えられる。
今後、企画財政課で検討し
ていく。

協働のまちづくりを研修

総務常任委員会

まちづくり条例を制定した 長野県木曾町に学ぶ

美咲町でも合併後、自治会活動協働のまちづくりを推進している。二十一年度から地域審議会を立ち上げる予定である。
自治組織の先進地、木曾町に学んだ。

研修先

長野県木曾町

研修内容

自治基本条例に基づくまちづくり

木曾町は、平成十七年十一月、一町三村で合併。合併後の人口は一万三千人、面積四七六km²、95・4%が山林の町である。合併協議会の段階から分権型合併を基本に、地域自治組織制度の協議を重ねる。

平成十七年三月に合併協議会内に条例制定と地域自治組織の研究に向けたまちづくり委員会が、住民代表各町村四人の十六人と大学の教授一人の計十七人で設置。検討委員会を六回開催

し、合併前に自治基本条例にあたる木曾町まちづくり条例を成文化し合併協議会へ報告。合併後、初議会で条例案の審議を行い公表、意見募集を行う。
十八年一月臨時議会でまちづくり条例を審議、可決する。

旧四町村地域ごとに自治組織立ち上げに向けた懇談会が行われ、五月末までにすべての旧町村に自治組織が設立された。

事務所はそれぞれの旧役場支所に設置し事務局長は支所長が兼務。

旧木曾町の福島地域協議会の内容と活動の説明を受ける。

組織は全部で五部会
各部会への参加者は、あらゆる分野の団体・個人から組織されている。

くらしづくり(八十人)
まちづくり(四十人)
ものづくり(二十五人)

げんきづくり(四十人)
ひとづくり(九十人)
で構成され、地域協議会委員十三人に各部会から二人参加し、二十三人で毎月末に地域協議会が開催される。協議会では、予算配分、地域づくりの検討をする。

合併の枠組みの中にそれぞれの町をはめていくため、合併前に条例案を製作しておくことが地域まちづくりを進める上でいいのでは。合併後に条例制定を考えるとどうしても合意できない部分ができ、条例制定が難しいと感じた。

協働のまちづくりは、旧町の特色を生かした支所中心の組織づくり、活動は参考になると感じた。

美咲町が二十一年度に計画している地域審議会、まちづくり協議会の立ち上げに参考とする。



民間企業の社屋を譲り受けた木曾町の本庁舎（本庁前で総務常任委員会メンバー）

自治基本条例とは

地方分権「地域のことは地域で決めて実行する」の流れを受けて「自分たちのまちを自分たちでつくる」住民自治の精神を明文化したもの。

小中一貫教育と

社会福祉事務所を研修

民生教育常任委員会

委員会の継続審査事項と行政が直面している課題を先進地に学び、課題解決・議員の資質向上の一助に行行政視察を行った。

今回は、小中一貫教育と社会福祉事務所の設置が研修課題。七月十日、十一日 広島県府中市教育委員会および世羅町社会福祉事務所にお世話になった。

小中一貫教育

美咲町も子どもの成長を踏まえ、義務教育九年間を小・中学校が連携して教育する試みが始まるようとしている。国ではカリキュラムの弾力化、学校間の連携に改善が必要とし、十八年度から一貫教育の取り組みを始めている。

九年間を まとめて指導

訪問した府中市では、国に先駆けて平成十六年度から推進協議会を設置、実践研究してきた。目崎教育長は義務教育九年間をひとまとめにし、小から中へのス

ムーズな移行を図り、すべ
ての子の可能性を最大限伸
ばす教育の必要があるとし
た。

三つのタイプに

府中市では小学校十一
校、中学校五校ある。中学
校区で小中学校をまとめ、
学園を組織。学園には小中
学校が同じ敷地内にある一
体型の学園や小中学校が離
れている連携型学園があ
る。(併用型も)

施行は好評

十六から十九年度を試行
期間、全教科で学習の継続
性を重視するカリキュラム
を作成。中学校の教員が小

学校へ出向いて教える乗り
入れ授業や小中学校の合同
授業・体育祭も実施した。
中学校の教員との接触は、
小学生には好評である。精
神面にも効果があり、不登
校も三年間で半減したとの
こと。保護者は学力・生き
る力・心のケアに満足して
いる。

小中学校の教員同士も交
流が深まり、互いの学校の
理解、児童・生徒への関心
も深まった。
試行期間中の結果から、
二十年度に一貫教育に完全
移行した。

問

小中学校の距離に一
貫教育は関係するか。

答

教員の移動には近い
方が有利。離れていて
も課題は解決できる。

問

中学校教員が小学校
の免許なしで小学校で
教える問題は。

答

小中学校の教員が一
緒に授業する。担任が
現場にいれば問題ない。

当日は、明郷小学校四年
生の英語乗り入れ授業を視
察。小中学校の教員が協力
し、身近な物の発音など楽
しい英語の授業だった。

問

良い面ばかりが目立つ研
修であった。試行期間中の
教職員の奮闘・協力があれ
ばこそその結果か。美咲町で
も一貫教育のもつ九年間を



小中学校の教員と一緒に英語の授業(府中市立明郷小学校4年生)

ひとまとめにした魅力を伝
えたい。

相談に 速やかに対応できる 社会福祉事務所

事務所設置の申し入れ。一

年余りの職員派遣、研修、協議を重ねて、十八年四月に福祉事務所を開設した。町村での福祉事務所設置は任意事項のため、設置後には、県職員の派遣や財政措置も国県から受けた。設置の効果は、住民の相談に速やかに対応でき、早い問題解決ができる。申請、決定までの時間短縮、緊急ケースへの迅速な対応、役場との協力連携、不正受給の防止ができること。

資格が必要

問題点は、担当職員に社会福祉主事の資格が必要で職員の固定化が懸念される。まれな事例に対応するノウハウがまだない。小規模町のため地縁があり、職員の配置が難しい。専門的な技術の習得・研修にも時間がかかる。

岡山県も権限委譲が進められ、美咲町でも福祉事務所に詳しい県職員が派遣され、福祉事務所の設置が計画されている。

草津ホンモロコの 養殖を視察

産業建設常任委員会

六月二日、三日、滋賀、兵庫方面を視察した。草津市長の発案で、日本で初めて研究を始めた「草津ホンモロコ」の養殖について、草津市産業建設部農林水産課の職員の説明を受けた。外来魚の侵入、ヨシ帯など産卵繁殖場の減少などの原因で、天然ホンモロコが激減している。琵琶湖では十年前まで百五十〜三百トンの漁獲量があったが、平成十六年にはわずか五トンまで激減した。

養殖方法には埼玉方式と鳥取方式がある。埼玉方式が収穫量も多いということで、埼玉方式を視察した。平成十六年度から、ホンモロコの養殖がスタート。十七年度が九万匹、四百三十千口、平成十八年度が五万匹、二百五十千口を生産。養殖は休耕田、水耕栽培ハウスを利用して。また生産者は年齢が高く、担

手育成が今後の課題のようである。養殖とともに販路の拡大も重要で、市場調査では京都の料理店からの需要がある。天然ホンモロコは価格の高騰から、値段と品質が安定した養殖ホンモロコの安定供給に強い要望がある。学校や保育園などの給食にも活用している。

美咲町でも中央地域で中央農村支援隊の皆さんが休耕田などを利用してホンモロコの養殖にチャレンジ中である。草津の研修の報告とあわせて、中央農村支援隊と産業建設委員会合同の研究会を開催した。養殖は鳥取方式で、収穫量は草津に負けない量を養殖されており、現場も視察した。学校給食にも二回出し、児童の評判もよかったとのことだ。美咲ブランドのホンモロコの養殖の成功を祈っている。



“あっ”おったおった草津ホンモロコ（草津市）

20年前から給食は 地産地消の多賀町

二日目は滋賀県犬上郡多賀町で、学校給食における地場産物活用の取り組みを研修した。

多賀町では、二十数年前から給食への地産地消の取り組みや児童に農業体験をさせており、当時としては珍しい取り組みであった。子どもたちは食の安全安心を学習し、いろいろな体験で心の健康にも成果があった。学校給食に地元産の野菜を使うためには、栄養士、調理員と児童生徒、保護者と生産者の信頼関係が大事である。地場産物使用割合



人気も上々 売り上げも上々「きまぐれ市」

は、滋賀県の平均18・5%の二倍強の38・2%も学校給食に提供されている。

生産者も初めは家庭菜園の延長程度であったが、いろいろな種類の野菜を生産するために専業農家に勉強に行くなど努力されたようだ。出荷時、野菜に虫がいたり、外側はよくても中の方が傷んでいたりと、いろいろな体験談も生産者から聞いた。関係者の自慢は学校給食の残飯が少ないこと。

れ、人気も上々、売上もかなりあるそうだ。「きまぐれ市」は古い小さな納屋をそのまま使用し、「えっ、ここが市場？」と思うほどだが、その古さがかえって新鮮な感じだった。「三里四方の野菜を食せ」という言葉があるように、地域で採れた野菜、特産品を使用することは大切だ。美咲町も学校給食に地元の食材を今まで以上に活用し、よりよい食育事業となることを期待する。

最後に、兵庫県豊岡市の話題の「たまごかけご飯但熊」を視察した。スタイルは美咲町の「かめつち食堂」とほぼ同様だった。醤油は市販のもので、かめつち食堂のこだわり醤油の方が良かった。

美咲町のためごかけご飯は、町内産の米、醤油、卵にこだわっており、安心安全である。

後日、「森のたまご」ブランドの(有)美咲ファームを訪ね、近代的、衛生的な施設を見学した。

稲美・岡垣2町が 広報研修に来町

六月三十日は兵庫県稲美町、七月七日には福岡県岡垣町の議会広報委員会が、美咲町議会広報の視察研修に来町。

来町の理由は、議会の月刊誌「地方議会人」に優れた議会だよりとして「みさき」の記事が登載されたため、研修地に選んだとのこと。



熱心に交流 岡垣町広報委員会 7月7日

七月三日、県市町村振興センターで町村議会議員の研修会が開催された。十二全町村議員が参加。「これからの地方議会のあり方」と題して、元全国都道府県議会議長会の野村稔先生の講演を聴いた。

議会のあり方を学ぶ

議員研修

薄、施策に優先順位を提言する時代に、審議会の委員に議員がなることは、議会での審議が鈍化、原則は委員に就かぬこと。

民からの議員数削減の声に押し切られた形、議員の削減の影響（住民の声が届かないなど）を住民は知らない。市町村議員をかばう、支援する組織がなかったのは残念とのこと。

美咲町議会でも旧三町でのあり方、やり方に違いがあり、調整しやると落ち着いた方向で進んでいる。この研修で得たものを議会に、委員会に、議員の活動にと生かし、住民から信頼される議会に努力したい。

議員の減少は 住民の損失

町村議会は合併で大幅に議員数が減少。さらに、法定数から削減するなど、住

議会広報の 重要性を再確認

住民に親しまれる読みやすい議会だよりの編集に、住民登場の企画を取り入れたり、写真専属の委員がいたり、それぞれの工夫があり勉強にもなった。

各町の行政・議会の様子などの意見交換もできた。

お互いに議会だよりの重要性を認識し、住民に親しまれる紙面の充実に努力することを約束し終了した。

二町とも合併していない町、稲美町議会だよりの108号、岡垣町は70号と長年、議会だよりの発行を続けている町である。



ようこそ美咲町へ 稲美町広報委員会 6月30日

美咲町では、広報委員が割り当てを決め、すべてまとめて校正、読み合わせするスタイル。委員の負担が多いことに驚くとともに広報に取り組む姿勢に感心された様子。

事務局でまとめる。

監視・提言の充実に行政の公平、公正、能率性が確保される。税の増収は期待する。



時に笑いもある研修（市町村振興センター 7月3日）

ダム湖に響け

さくらんぼコーラス

町内のサークルを紹介し
ます。
楽しいサークル、ユニークなグループご連絡ください。
議会広報委員がおじゃま
します。

七月九日夜の九時前、旭町民センター二階の窓越しに人影が揺れる。入室しても振り向きもせず、佐堂民夫先生の指揮棒と譜面に集中。「この広い野原いつぱい」の合唱が続く。指揮棒が止まり、やさしく歌の心を伝える指導が入り、繰り返し練習。時折、先生の言葉に笑い声も。楽しく一生懸命にコーラスに取り組む練習風景でした。

いつ頃から活動していただけますか

平成十二年に結成。毎月第二水曜日の午後七時三十分から九時まで練習。部員は三十人を超えることもあったが、最近は一、二十五人で定着。昨年、若い人が入ってくれて活気が出てきた。全員が女性。男性の参加もしてほしいとのこと。

どのような活動をしていますか

八月末開催の「真庭コーラスフェスティバル」に向け猛練習中。今年で六回目の出場。観客に「上手になったな」と言われるとうれしい。地域の文化祭、更生

保護大会、まきばの館のXマス会にも出場。さくらんぼの歌声が広がり、和やかな地域づくりに役立てばいい。

活動で楽しいことは何ですか

思い切り声を出すことで、ストレス解消になる。

活動していて心配なことは

佐堂先生に遠方から来て



歌が好き 仲間も好き（夜の練習風景）

集まって情報交換もできる。何よりも歌っている時間が一番楽しい。夜でも遠方（鏡野町）から来て指導してくださる先生。参加したくてもできな

いただいた情報、先生が来られなくなった時、サークルが続けられるか心配。グループリーダーに頼りつつ放しの面がある。リーダーの後継ぎも課題。

町に要望は

支所の教育委員会がなく、旭町民センターの使用が不便になった。地域活動に頑張れと言うなら配慮がほしい。

議会に要望は

旭地域はダム湖に沈むような気分、地域に活力を呼び戻すよう頑張ってください。

議会だよりは読んでいただけますか

改善され読みやすくなりました。読んでみようと言う気になりました。

議会傍聴をしてみたいですか

議会中継が始まったが、やはり傍聴席が良かった。また傍聴に行きたい。

地域を盛り上げてくれた人が高齢化してきた。すべてに言えるが、次世代のリーダー育成や若者の地域への参加があれば地域が寂れないのだが、地域の伝統行事も伝えていかなければすたれていく。若者に技術や伝統を継承していきたい。

編集後記

「暑いなあ」が合言葉。ガソリン、物価、年金、医療、温暖化と、身も心も疲れていませんか。

雨が降らない天候、農作物への影響も心配。新しい農業委員二十八人も決まった。町の農業の指針、活性化に期待したい。

六月議会でも住民の声を代弁し、個々の思いを伝えるアツイ論戦を展開。一方で、町内の課題を先進地に学び、研修報告も紙面に記載。

課題は何か。昼寝前にご一読くだされば幸いです。残暑厳しきおり、ご自愛ください。

(岡田記)

- 議会広報編集特別委員会
- 委員長 岡田 壽
- 副委員長 日神山定茂
- 貝阿彌幸善
- 松島 啓
- 寒竹 壽